



日本ロレアル株式会社

テナントオフィスにおける
省エネ対策や再エネ活用等の
取組みについて

2026 March

オペレーション本部 Quality & EHS

井桁 和幸

L'ORÉAL

JAPAN



00 — ロレアルについて

01 — 環境への取り組み

02 — テナントオフィスに
おける省エネ対策

03 — リニューアブルエナジー
& リサイクル



Part 0

ロレアル
について



ビューティにおける グローバルリーダー

117年にわたり
ロレアルはその知見と
情熱をたったひとつの
事業に捧げてきました。
それは美の創造です。

ビューティ市場で世界

NO.1 (1)

社員数

90,000+

2024年に申請した
特許の数

694

グローバルブランド数

40

事業を展開する国・地域

150+

売上

440.5

億ユーロ

営業利益

88.9

億ユーロ

ONE
L'ORÉAL
JAPAN

L'ORÉAL

JAPAN 20 BRANDS



Aēsop.



YVES SAINT LAURENT



LANCÔME
PARIS



shu uemura



SINCE 1851
Kiehl's



PRADA



VALENTINO
BEAUTY



Maison Margiela
PARIS



HR
HUGO BOSS



DIESEL



ARMANI



RALPH LAUREN
FRAGRANCES



MAYBELLINE
NEW YORK



L'ORÉAL
PARIS



KÉRASTASE
PARIS



L'ORÉAL
PROFESSIONNEL
PARIS



LA ROCHE-POSAY
LABORATOIRE DERMATOLOGIQUE



SKINCEUTICALS
ADVANCED PROFESSIONAL SKINCARE

A close-up photograph of a woman with dark skin and her hair styled in intricate braids. She has a red, star-shaped mark on her forehead and is looking down at a bunch of bright yellow flowers she is holding in her hands. The background is a soft-focus green, suggesting an outdoor setting with foliage.

PART 1

**L'ORÉAL
FOR THE
FUTURE**

サステナビリティへの
取組み

L'ORÉAL
JAPAN

L'Oréal for the Future

10TH
CONSECUTIVE
YEAR



Climate
Forests Water

CDP

A List
2025

L'ORÉAL
GROUPE

CDP認証10年連続
トリプルA評価

[CDP HP Link](#)

TRIPLE 'A'
CLIMATE WATER FORESTS



We have
four key pillars.

当社が注力する
4つのテーマ



Steward the
Climate Transition



気候変動への対応



Safeguard
Nature



自然環境の保全



Drive
Circularity



循環経済の推進



Support
Communities



コミュニティー支援



By 2030, we will aim to:
当社の2030年目標



Steward the Climate Transition
気候変動への対応

100%の事業所で
再生可能エネルギーを使用

GHG排出をScope 1 & 2において
2019年対比57%削減

購入品とサービス、上流の輸送と流通、
出張によるScope 3の温室効果ガスの
絶対排出量を2019年比で28%削減

(1) Operated stores where we hold an electricity subscription

PART 2

テナントオフィスにおける省エネ対策

L'ORÉAL
JAPAN



テナント×オーナーの共創：『要請』から『自律的連携』へ

ビルオーナー (インフラ提供・ハード)



- Low-Eガラス導入
- 空調自動制御の更新
- 共用部人感センサー化



資産価値向上

(Green Value / Win-Win)

東京都『準トップレベル事業所*』認定

ビル全体のCO2削減

(キャップ&トレード貢献)

日本ロレアル (運用・データ連携・ソフト)



- 専有部LED化先行実証 (パイロット)
- IOTを活用した各Zoneの温度管理
- 詳細な管理データのフィードバック

[*東京トップレベル事業所認定制度リンク](#)

協業の具体例



【先行実証の役割】

2022年他のテナントに先駆け「専有部LED化」を開始。



【役割分担の明確化】

ビル側 (ハード) : インフラ導入・更新
テナント側 (ソフト) : データに基づく運用最適化



【共通目標】

東京都の認定の維持と、ビル全体のCO2削減の最大化

新宿パークタワー における構造的 イノベーション

- Low-Eガラス導入（2015ー）
 - ペリメーター空調負荷の大幅な削減（蒸気・冷水削減）
- オフィス及び共用部の照明を全面LED化（2020－2024）
- 室内CO2濃度に応じた換気量の最適化
- 空調機インバーター化による高効率な運転管理を実現





L'Oréal For The Future 持続可能なオフィス環境の実現

ロレアルのグローバル・サステナビリティ・プログラム「L'Oréal For The Future」に基づき、日本オフィスにおける具体的なCO2削減目標を推進。

Mission:

単なる省エネ活動にとどまらず、テクノロジーを活用したスマートなオフィス運営への転換。

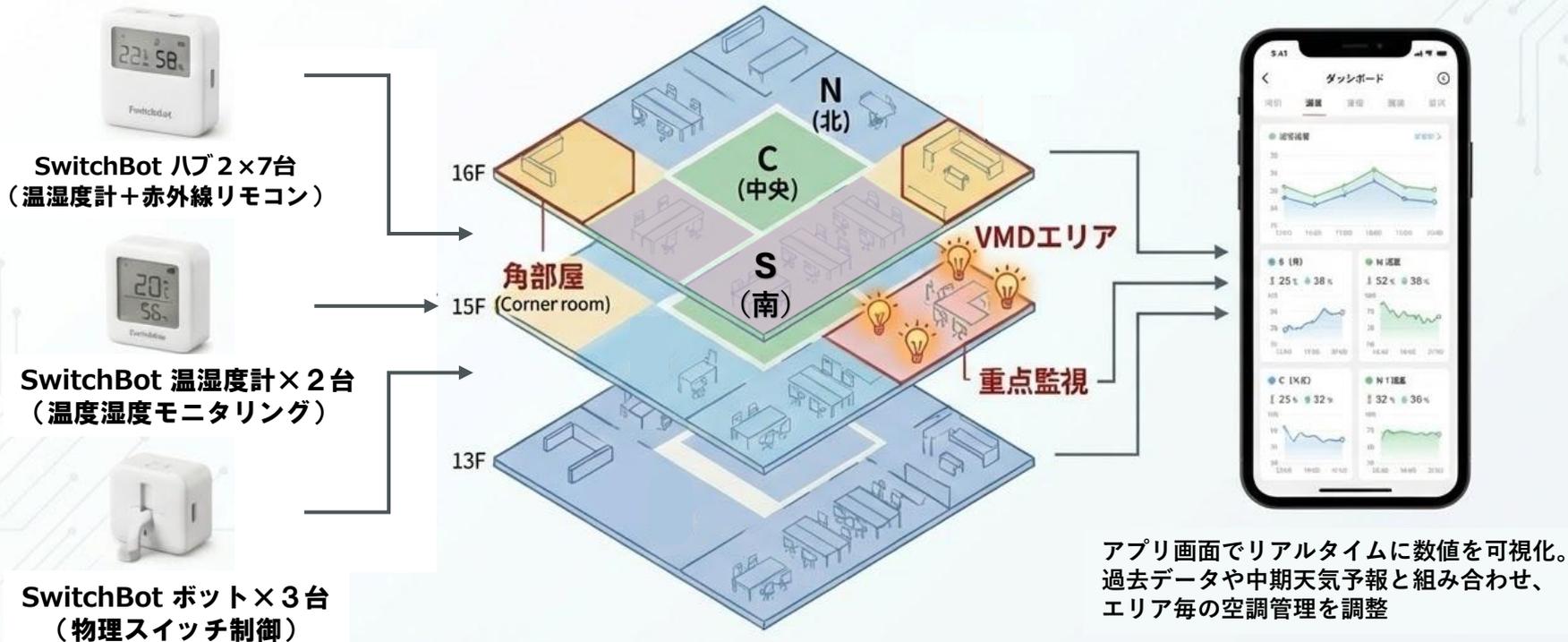
Key Focus:

オフィス専有部におけるエネルギー消費の可視化とプログラム自動制御。

IoTが変える空調管理：『見えない空気』の超・解像度化

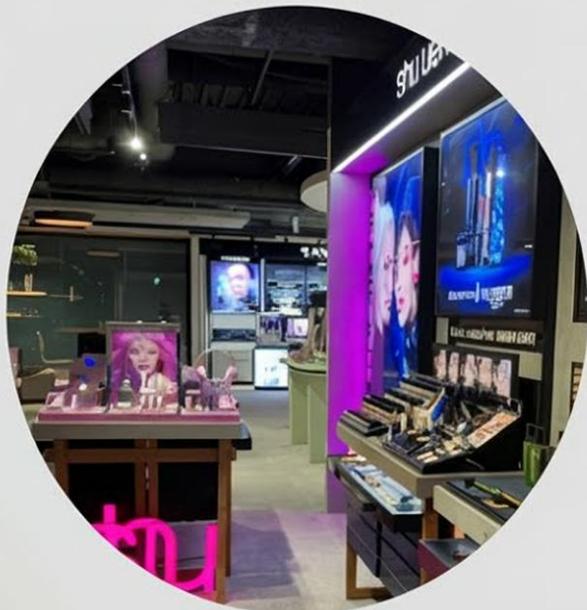
導入デバイス：手軽に始めるIoT環境センシング

実施内容：エリア戦略とリアルタイム可視化



実際の稼働
シーン





Before : 通常稼働時 (All On)

After : 自動消灯後 (Eco Mode)

視覚化される省エネルギー

営業時間外の不要な照明(ビジュアルマーチャンダイジングエリア (VMD))
を時間制御。

コスト
ポット : 約5千円/台
ハブ : 約1万円/台

快適と省エネを両立する『インテリジェント・スケジュール』

変動する始業時間



休み明け（月曜等）は7:00から、通常の平日は各センサーで測定された建物内の気温に応じて空調を細かくプログラムをおこない自動制御

始業時には最適温度で迎える快適性



SwitchBot 現在 1 2 台稼働
(センサー合わせて)

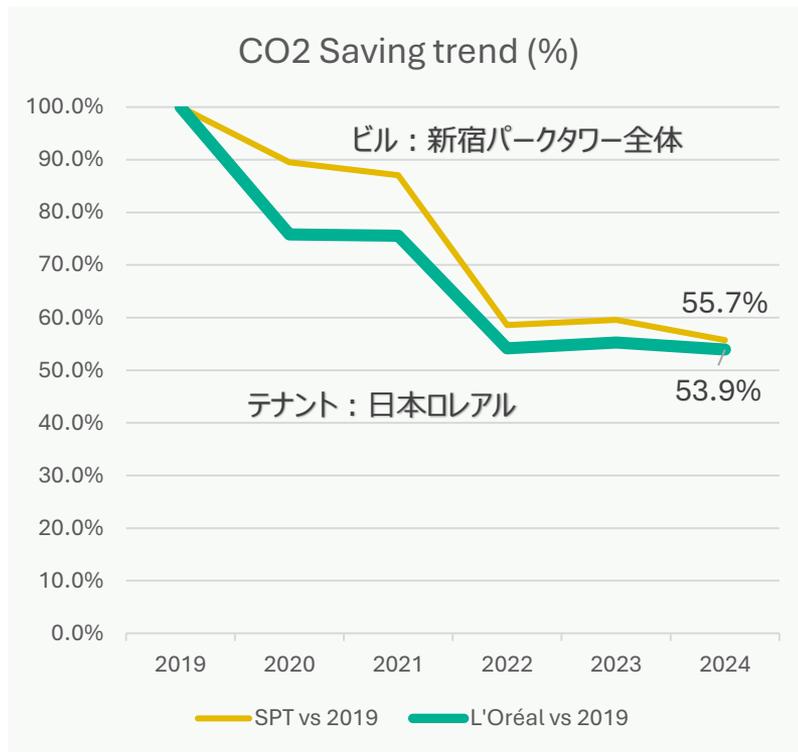
照明のオンオフ自動制御



VMDエリアは夜間(18:00)に物理スイッチをロボットが押し強制消灯し、各ゾーンはビル管理システムのタイマー機能で強制消灯することで省エネを推進。

日本ロレアルの実績サマリー

CO2 2019年比 排出量 約 **4割減** (tCO2/year)



日本ロレアルの実績サマリー

CO2 2019年比 単位面積で約3割効率化
(tCO2/year m²)





PART 3

リニューアブルエナジーと リサイクル

L'ORÉAL
JAPAN

日本リアル再エネ100%への道筋

徹底的な省エネ Reduce

- LED化（全面）
 - IoT照明管理
 - 空調最適化
 - Low-Eガラス
- ▼約4割削減達成



削減できる分は
徹底的に削減

残存エネルギー Green Offset

- 電力 ■■■■ MWh
 - 熱 ■■■■ GJ
- ▼環境価値の購入



どうしても使う分を
顔の見える再エネでオフセット

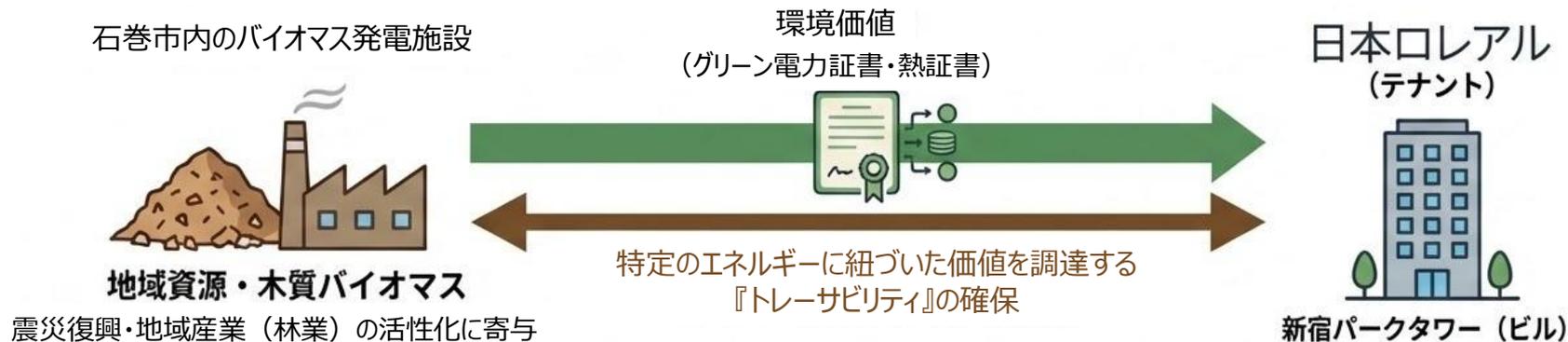
再エネ100%達成 Renewable Energy

- Scope 2 排出量ゼロ ✓
 - 再エネ比率 100% ✓
- ▼CDP A評価継続



地域貢献×再エネ
の二重価値を

『顔の見える再エネ』の選択：石巻市内のバイオマス発電との連携



ご参考『3つの選定基準』Strategic Criteria

① 【Additionality（追加性・地域貢献）】



震災復興・地域産業の活性化に寄与するエネルギーを選定すること。

② 【Stability（安定性）】



天候に左右されにくいバイオマスエネルギーにより安定的なベースロード電源の再エネ化を支えること。

③ 【『思い』の共有性】



単なるCO2削減（数字）だけでなく、社員との『思い』を共有すること。

スピーカーム『私たちは、ただCO2がゼロになればいいとは思っていません。『どこで、誰が、どうやって作ったエネルギーか。』このプロセスに投資することでオフィスにしながら地方創生に関与できるのです。』

石巻合板工業株式会社 グリーンエネルギー（電気）



【原料】 合板製造の工程で発生する端材や樹皮(バーク)をバイオマス燃料として活用。

【バイオマス】 木材を乾燥する工程や熱圧する工程で使用される蒸気の100%をバイオマス燃料由来としています。バイオマス発電プラントも備えており、製造工程で使用する電力の約60%を賄う。

セイホク株式会社 グリーンエネルギー（熱）

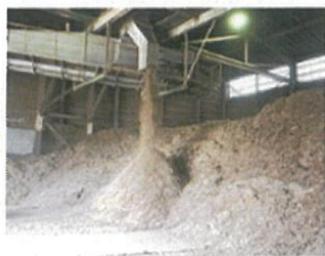
木質バイオマス（木くずチップ）を利用した熱電供給設備

【原料】 自社工場はもとより、建設建築及び製材過程等で発生する木質系廃材、また林業で発生する間伐材・小径木・木の幹・枝葉・木根等を収集、チップ化し発電ボイラーの燃料として有効活用し蒸気による熱回収を行います。

【バイオマス】 熱回収方式は、蒸気タービンによる抽気復水方式で、**生み出された蒸気**は工場のプロセスに使用、電力は所内動力と当工場のプロセスに使用し、余剰電力は売電します。



廃木材



燃料用再生チップ



バイオマスボイラー



再生エネルギーで合板製造

定量的なインパクト

グリーン熱証書
The Certificate of Green Heat

日本ロレアル株式会社
使用期間: 2025年1月から2025年12月まで
NIHON LOREAL K.K.
Period of use: From January 2025 to December 2025 殿

Serial No.: バイオマス熱



生成熱量: [] MJ
Generated heat:
熱生成期間: 2024年10月から2024年12月まで
Heat generation period:
熱種別: 自然エネルギー熱 (バイオマス熱) (セイホクバイオマス熱供給設備)
Type of heat generation: Natural energy heat (Biomass heat) (Seihoku Biomass Heat Supply Equipment)
発行日: 2025年12月18日
Date of issue: December 18th, 2025
この証書は、石巻市内の熱生成所において上記の通り自然エネルギーによる熱生成を行ったことを証する。
This is to certify that the above-mentioned amount of heat was natural-energy generated in Japan.

一般財団法人日本品質保証機構 認証済
Attested by JQA

日本自然エネルギー株式会社
Japan Natural Energy Company Limited

グリーン電力証書
The Certificate of Green Power

日本ロレアル株式会社
使用期間: 2025年1月から2025年12月まで
NIHON LOREAL K.K.
Period of use: From January 2025 to December 2025 殿

Serial No.: バイオマス発電



発電電力量: [] kWh
Generated power:
発電期間: 2025年1月から2025年3月まで
Power generation period:
発電方法: 自然エネルギー発電 (バイオマス発電) (石巻合機工業株式会社発電所)
Type of power generation: Natural energy (Biomass power) (Ishinomaki Gekki Kogyo Co., Ltd. Power Plant)
発行日: 2025年12月18日
Date of issue: December 18th, 2025
この証書は、石巻市内の発電所において上記の通り自然エネルギーによる発電を行ったことを証する。
This is to certify that the above-mentioned amount of power was natural-energy generated in Japan.

一般財団法人日本品質保証機構 認証済
Attested by JQA

日本自然エネルギー株式会社
Japan Natural Energy Company Limited

- 環境価値 + 社会価値
- インクルーシブ・ソーシング

新たな雇用 3名





 **あなたの組織
でも始められます**

 まずは年間使用電力量を把握

 自社の価値観に合う発電所を探す

 環境価値証書の仲介事業者に相談

 小規模(一部のフロア等)からスタートも可能

 初年度は時間がかかりますが、2年目以降は更新で継続できます

サーキュラーエコノミー 廃棄物削減とアップサイクル

製品容器の回収



テラサイクル社と提携し、主要12ブランドの店頭で空き容器を回収。

2025年実績：
約32トン

「美」のアップサイクル



什器・建材へ：廃棄予定の化粧品（アイシャドウ等）を顔料として活用し、オフィス内のタイルや塗料へ再生。

制服の再生：美容部員の旧制服を自動車用防音材などに再利用。

今後の展望

2030年、その先へ

- テナントという制約を、オーナーとの「対話」と「協働」で乗り越える。
- 省エネ＝脱炭素とウェルビーイング（快適性）を両立させる。
- 世界を突き動かす美の創造を、サステナブルな方法で続けていく。

L'ORÉAL
JAPAN



L'ORÉAL
FOR THE FUTURE



March 2026